

RO 水の回収率別による RO 膜の性能の比較 — 多施設との比較から —

第 68 回 大阪透析研究会

第 52 回 日本透析医学会学術集会

和田 茂・逸見加代・秋山早苗・桜井美紀・林 彩子・我那覇志真子・戸田和美・松本愛・岡本真由美・丸山禎之・佐々木敏作(佐々木内科クリニック 腎センター)

【目的】RO 水の回収率別による RO 膜性能を比較した。【対象および方法】対象は RO 水の回収率を 60%以上(HR)としている他施設(13 施設)とし,当院で 3 ヶ年間施行する 48%とした回収率(LR)とで RO 膜性能と水質を比較した。RO 膜性能は電導度除去率と膜の透水能とし,水質は RO 水電導度とした。また同一 RO 装置における回収率別による RO 膜性能の比較も行なった。液中の ET 濃度,遠心培養による生菌数は当院の 3 ヶ年の推移を示す。【結果】当院の RO 水電導度は $2 \mu\text{S}/\text{cm}$ 以下,電導度除去率は 99%程度にて推移している。しかし,HR とする他施設の RO 膜性能と水質は 2 年の経過後に低下した。さらに HR とした膜の透水能は経時的に低下したが,当院ではその低下は認められなかった。同一 RO 装置における比較においても当院の RO 膜性能は HR とした膜性能に比し,良好な結果を示した。当院の RO 水中の ET 濃度は概ね 10EU/L 以下となり,透析液供給装置後の透析液では現在は検出感度以下,生菌の検出も認められなかった。【結論】48%とした RO 水の回収法は HR 法に比し,RO 膜性能の低下を抑止でき良好な水質を長期間,維持できた